「眠催女彼〜メスカノ〜」　作カジハラエム

ボクが好きな学園のアイドル、東谷美生（ひがしたにみう）。
ボクの運命の彼女さ。
ミウとボクは比翼連理（ひよくれんり）の男女っ！

前世から決まってたのに、ボクは昨日まで気付けなかった…。
やっと思い出したんだ。
目覚めたギフト「眠催女彼（メスカノ）」のおかげでねっ。
待たせてごめんミウ…。

ええと。
ミウのことを話してもいいかな。
最初の出会いは、駅だった。
偶然見かけたんだ。
いや、今から思えば必然っ。
その時の衝撃たるや…思い返してもヤバい。
制服を見て、某女子学園に通学してることを知った。
女子校…。
泣きたくなった。
でも、来年から共学になるらしく、震えた。
ボクが進学の年に共学化になるとか、運命すぎてヤバい。
もちろん、受験したよ。
合格したとわかった時は歓喜のオナニーが止まらんくてヤバかった。

(徐々に早口になる)
まずは、名前。
ヒガシタニミウ。東の谷に、美しく生きる。
いい名前すぎ。ヤバい。
名付けはご両親かな。ナイスセンス。
お義父さんお義母さんありがとう。
ちなみに漢字の画数は二九。
姓名判断でもボクとの相性カンペキすぎてヤバい。

ルックスはボクのちょータイプ。
鬼かわで神美人（かみびじん）。ヤバい。
顔だけじゃなくスタイルもヤバいからヤバい。
ボク調べだと…。
身長一五八センチ、体重四九キロ、バスト九四、ウエスト六〇、ヒップ九二っ！
グラビア体型すぎてヤバいっ。

裏垢でやったＸ（エックス）学園オナペット投票はぶっちぎり一位！
とーーぜんすぎてヤバい。
ボクに日に十回どころか週百回以上シコらせるミウっ！　鬼ヤバい！

オナペットアイドルにシコキング！　ベストカップルすぎてヤバいっ！

（自慰しながら）
あぁ。
ヤりたい。ヤりたい。ヤりたい。
絶対ヤる。
ヤる。ヤる。ヤるっ。
ミウっ。
君はボクの「メスカノ」だっ（語尾射精）。

×　　×　　×

わたくしの名前は東谷美生（ひがしたにみう）。

尊敬する祖父母には蝶よ花よと愛（め）でられ、
愛おしい両親には淑女として乙女として厳しく育てられ、
お陰様で何不自由ない学生生活を過ごしております。

巷では、名門と評判の私立（わたくしりつ）の女子学園に通っておりました。
過去形なのは、今年から男子の受け入れを開始したからです。
女子校から共学校。
正直戸惑いましたし、転校も考えました。
ですが、仲良くなった御学友の皆さんもいますし…考えを改めました。
同学年は女子のみですしね。
とはいえ、目に入る機会はそれなりにあります。なかなか慣れませんが。

ちなみに、クラスでは共学化の影響か、男子の話題が増えました。
今日のお昼休みも好きな男子のタイプを聞かれましたので、
そもそも男子を好きになったことがないと答えたら、
御学友の皆さん、すごい顔になってしまいました…。
間違った事は言っていないのですが…。

わたくしはいたたまれなくなり、逃げるように教室を後にしました。
今は、誰もいないお手洗いにて鏡に映る自分の顔を見つめております。
一人反省会です。

（蛇口ひねる）

（ミ　ウ）「タイプ……タイプ…。
（いやそうに）学園の男子はありえません…。

（止める）

不躾（ぶしつけ）で無遠慮（ぶえんりょ）な視線が不快すぎです。

わたくしが気づいていないと思っているのでしょうか？
こそこそといやらしい…。
立派な性加害です。

(嫌な思い出を思い出す)
そういえば…。
一人だけ、堂々と見てくる男子がいました……。
目を逸らさず、なぜか笑顔……（驚く）きゃっ!?」

鏡に映るわたくしの背後に男子がいることに気づきます。

（ミ　ウ）「(驚きつつ）女子トイレですよっ?!」

まさしく、今話していた男子です。
入口のドアは閉まったままでした。個室に隠れていたのかもしれません。

（ミ　ウ）「(混乱しつつ）出て行ってくださいっ!!」

彼は動揺するわたくしを無視。耳元で何かを囁きます。

(エイジ)「(囁き）メスカノ」

（ミ　ウ）「(とまどいつつ）メス、カノ…？」

意味がわからない四文字に胸の奥がポカポカします。
祖父母に撫でられた時以上の高揚感。

(エイジ)「(乞い願うように）どうだ…？」

鏡越しの熱い視線に胸の奥がポカポカします。
両親に褒められた時以上の幸福感。

（ミ　ウ）「(とまどいつつ）急に体が……熱（あつ）…っ」

とにかく胸の奥がポカポカします。
甘酒を飲んだとき以上の酩酊感。

(エイジ)「(効いたのを確信する）大丈夫」

（ミ　ウ）「(急に落ち着く）……っ」

声を掛けられ、謎の安心感。

(エイジ)「(自信満々）心配いらないよミウ」

（ミ　ウ）「(急にときめく）……っ ///」

名前を呼ばれ、謎の高揚感。

（ミ　ウ）「（照れつつ）優しいんですね///」

（エイジ）「（彼氏面）彼女に優しくない彼氏なんていなくね？」

彼氏に肩を抱かれ、すべてを理解しました。

（ミ　ウ）「（彼女になる）肉親以外の異性で唯一、心を許せる…愛しい彼氏♥」

（エイジ）「（意外そうに）心だけ？　ボクは身も心もミウに捧げてんのに」

（ミ　ウ）「（照れつつ）〜〜〜〜〜っ///
だっ、誰かに聞かれたら…恥ずかしすぎますっ///」

（女子トイレ入口扉（非接触センサー付き）：開く）

（ミ　ウ）「（驚いて息を飲む）…っ！」
（エイジ）「（小声早口）ミウ…っ！」

エイジ様は固まったわたくしの手を取り、一番近い個室に入ります。

（個室ドア：閉／鍵：閉／自動便座：開）

（エイジ）「（小声で楽しそうに囁く）セーーフっ（笑）」

（女子トイレに入ってくる足音）

（ミ　ウ）「（必死に頷く）〜〜〜っ！」

（隣の個室：ドア閉／鍵／自動便座：開／衣擦れ／座る）

エイジ様はわたくしを背中から抱きしめ、後ろ髪に顔を埋（うず）めてきます。

（エイジ）「（気にせずしみじみと）い〜〜〜匂いすぎヤバぁ…」

うなじを擦られ声が漏れそうになりますが、口を塞ぎ必死に堪（こら）えます。

（ミ　ウ）「（口を塞いだまま唸る）んンンっ///」

（隣の個室：小音隠しの小洗浄音）

（エイジ）「一生嗅げるっ。
（鼻で嗅ぐ）すんすんっ。
（吐く）はぁ〜〜。
（息の続く限り鼻で吸い込む）す〜〜〜〜〜〜っ。

（堪能するようにゆっくり吐き出す）は〜〜〜〜〜〜っ」

（ミ　ウ）「（口を塞いだまま唸る）んンっ///　ん…ぁっ///　ン〜〜〜〜っ///」

こそばゆくて恥ずかしいですが、嫌ではありません。

（エイジ）「（鼻で嗅ぐ）クンクンっ。（口から吐く）はぁ〜〜っ。
（鼻で嗅ぐ）クンクンっ。（口から吐く）はぁ〜〜っ。
い〜〜匂いすぎだろぉ…。
ミウの匂い販売すべきっ。
絶対売れる…。
（小声早口）いややっぱダメだ他のやつに嗅がせたくないっミウの匂いを嗅げるのはボクだけっ」

（ミ　ウ）「（口を塞いだまま照れる）〜〜〜〜っ///」

（エイジ）「（整息）はぁ……っ、はぁ…っ、はぁ。
ヤバいおかしくなる。ちょっとブレイクっ。クールダウン」

エイジ様はわたくしの無駄に大きな胸を下から持ち上げてみせます。（SE）

（ミ　ウ）「（口を塞いだまま驚く）っ!?」

（エイジ）「（嬉しそうに）おっぱい。（SE）おっぱいっ（SE）」
（ミ　ウ）「（口を塞いだまま恥ずかしがる）ン♥　ンンっ!?♥」

（エイジ）「ぽよんぽよんっ…ヤッバ。服の上なのに…ヤパぁイ」

（ミ　ウ）「（口を塞いだまま恥ずかし感じる）（SE）んっ♥　（SE）ンン!?♥♥」

（隣の個室：小洗浄音）

（エイジ）「初めて見たときからず……っと触りたかった…っっ」

（隣の個室：衣擦れ／解錠）

（ミ　ウ）「（口を塞いだまま恥ずかし感じる）（SE）あ♥（SE）あぁ♥（SE）あっ♥♥」

（隣の個室：扉）

胸を揉み倒され、カクンと脱力。立っていられません。

（エイジ）「（囁き）揉み心地っさいっこぉ」（自動便座：閉）

エイジ様は胸をこねくりながら、わたくしを抱えつつ、便座の蓋の上に座ります。

（座る音）

（扉をノックする音）

（エイジ）「！」
（ミ　ウ）「（心から驚く）っ!?」

（西　　）「（恐る恐る心配そうに）あの……大丈夫？
（恐る恐る心配そうに）具合が悪いなら先生呼ぶよ？」

（ミ　ウ）「（慎重に）その声は……西さん？
心配してくれてありがとうございますっ」

（西　　）「（驚きつつ）ひがしたにさんっ!?
おかしな声が聞こえたので…気になって…」

（ミ　ウ）「（声が裏返る）わっ！　わたくしは大丈夫ですっのでっ」

エイジ様に乳首を探り当てられ、思わず声が裏返ってしまいます。

（西　　）「（おずおずと）東谷さん……？」

（ミ　ウ）「（感じてるのをガマンしながら）おっお気になさらず…っ。
今日は特に重い日でして……」

（西　　）「（納得して晴れ晴れと）わかりました……っ。
午後の授業に遅れそうでしたら、先生に伝えておきましょうか？」

（ミ　ウ）「ありがとうございますっお願いします…」

（西　　）「（嬉しそうに）はいっ。お任せください！
お先に失礼しますね…っ」

（足音／手洗い／女子トイレ自動扉）

（エイジ）「（楽しそうに）ミウがんばった（笑）」

（ミ　ウ）「（照れつつ）ガマンするの…辛すぎです ///」

（エイジ）「（からかうように）ボクに揉まれたがるミウパイが悪い」

エイジ様はブラウスの胸のボタンを一つ、外します。

（ボタン／ばるん）

（ミ　ウ）「あ…っ ///」

オーダーメイドのパールピンクのブラジャーを着けた胸がばるんと飛び出します。

(エイジ)「直接揉まれたすぎて飛び出た（笑)」

(ミ　ウ)「(照れつつ）そんな…っ ///」

エイジ様はウキウキで胸肉でパツパツのブラジャーの内側に指を差し入れてきます。

(ミ　ウ)「ひゃ…っ♥」

(エイジ)「ふぉっ！　生乳（なまちち）ヤッバっ！」

エイジ様の指は餅のように柔らかい肉の山に沈んでいきます。

(ミ　ウ)「あっ♥」

(エイジ)「(興奮しつつ）指がっおっぱいに溺れるっ！　ヤバっ！　揉んでるだけでイケるっ！　ヤバイヤバイ！」
(ミ　ウ)「あっ♥　あっ♥　あっ♥　あっ♥　あぁ……っ♥　あンっ♥」

エイジ様は胸を揉みまくりながら、うなじにキスの雨を降らせます。

(エイジ)「(興奮しつつ）ミウっ！　（キス）ちゅう」
(ミ　ウ)「(感じつつくすぐったがる）ひゃん♥」

(エイジ)「キスマークで…ぢゅっボクのものってわからせるっぢゅうぢゅうぅ、ぢゅ…ぢゅ…ぢゅっ」

(ミ　ウ)「(感じつつ喜ぶ）エイジ様ぁ♥　わたくしに彼氏がいると…周知してしまうのですねっ ///」

(エイジ)「身も心も…ボクのモノだっっ…ぢゅ〜〜…」

(ミ　ウ)「わたくし♥　エイジ様の彼女にしていただいて幸せですっ♥」

(エイジ)「ちゅっぱ。(興奮しつつ）ボクとミウは比翼連理のツガイっ！
ミウを幸せにできるのは、ボクだけっ。ちゅ、ちゅっ、ぢゅっ。
ミウを気持ちよくできるのは、ボクだけっ」

(ミ　ウ)「はぁっ♥　あぅ♥　はぁンつ♥」
(エイジ)「(舐める）レロ、レロレロ、レロロっ」

(ミ　ウ)「エイジ様の言う通り…ンン……ですぅっ♥」
(エイジ)「(舐める）レロレロ。(舐めキス）レロッちゅうちゅぅ」

(エイジ)「はぁ…っ。ミウ美味すぎっ。死ぬまでできるっ！」

（ミ　ウ）「（感じつつ驚く）えぇっ!?　死んだらダメですっ!!」

ショックすぎて声を荒げてしまいます。

（エイジ）「（勘違いに苦笑しつつ嬉しそうに）死ねるくらいミウに夢中…っ」

（ミ　ウ）「（感じつつ）そんなぁ。わたくし…どどぉすればっ」

（エイジ）「（舐める）レロレロ…ボクが……ミウに慣れるしかないっ…」

エイジ様はわたくしの乳首をねじり上げます。（SE）

（ミ　ウ）「（感じる）ひゃあん♥」

（エイジ）「ミウも慣れないと…死ねる」

（ミ　ウ）「（軽く息絶え絶え）が、がんばり…（ねじられる：SE）ま゛ぁっ！」

エイジ様は息絶え絶えのわたくしと入れ替わるように便座から立ち上がります。

（ミ　ウ）「っ!?」（SE）

エイジ様は便座に座らされたわたくしの眼の前に立ち、丸出しの胸を見つめます。

（エイジ）「（興奮しつつ）丸出しのミウに慣れるっ」

（ミ　ウ）「（恥ずかしがる）やぁっお目汚しです…っ///」

（エイジ）「（興奮しつつ早口）隠すなっ！
もっちり重たく長く垂れるおっぱい。薄ピンクちょい大きめの乳輪。勃起して尖りまくる乳頭っ。エロすぎヤバい！　さらに感度抜群とか違法すぎヤバい！
なによりっボクチンをこんだけ勃起させるおっぱいはミウパイだけ!!」

（ミ　ウ）「（恥ずかしがる）〜〜〜〜…///」

エイジ様は制服のズボンを下着ごとずり下ろします。（SE）
遅れて、（SE）
ヘソまで豪快に跳ね上がるモノに目を奪われます。

（ミ　ウ）「（息を呑みフリーズ）……ッッ!!」

（エイジ）「（興奮しつつ）ずっと勃起がヤバい」

（ミ　ウ）「（驚きつつ再起動）これが……」

（エイジ）「（興奮しつつ）彼氏のチンポ♥」

（ミ　ウ）「（驚きつつ興味津々）は、はじめて……見ました……っ///
父とお風呂に入ったことはありましたが……大昔すぎて……。（語尾小声）

（つばを飲み込む）ゴクリ。

すごく迫力を…感じます…。
太くて…長い……。
直立する姿勢が…雄々（おお）しくて…圧倒されます……っ♥」

（エイジ）「（興奮しつつ）ミウ、挨拶して？」

（ミ　ウ）「（困惑しつつ）え？？　あ……あいさつ…？？」

（エイジ）「（興奮しつつ）長い付き合いになるし」

（ミ　ウ）「（戸惑いつつも丁寧に）あ、はい///　ええとはじめまして…」

エイジ様は嬉しそうに男性器をブンブン揺らします。（SE）

（エイジ）「（興奮しつつ）ミウでめっちゃシコったからなー。
はじめましての感じしない」

（ミ　ウ）「（まじまじ見つめながら）シコった…？　わかりませんが、ありがとうございますっ」

（エイジ）「（興奮しつつ）それっ破壊力ヤバ…っ」

（ミ　ウ）「（嬉しそうに）よく見ますと、先端が…ピンクなんですね…！
わたくしの好きなカラー…♥
丸くて…ツヤツヤで……お口のようなものもあります…。
実に愛らしく思います♥」

自宅の愛猫（あいびょう）を撫でるように優しく撫でてあげます。（SE）

（エイジ）「（興奮する）お゛っ」

（ミ　ウ）「（愛でるように）これからよろしくお願いします♥」（SE）

（エイジ）「（興奮する）お゛っおぉ……っ」

（ミ　ウ）「自宅で飼ってるサイベリアンのエミーリアはこうしてあげると喜びます♥（SE）
なにげにあったかいですね…♥」（SE）

（エイジ）「（感じつつ）イイっ！　ミウっ。それイイっ」

（ミ　ウ）「（嬉しそうに）ありがとうございますっ♥（SE）無邪気に喜ぶエイジ様も可愛ら

しいです♥（SE）」

エミーリアの喉をくすぐるように先端の裏側を同じようにくすぐってあげます。

（SE：くすぐる／跳ねる）

（エイジ）「（驚き感じる）はうっ！」
（ミ　ウ）「わっ!?」

くすぐった途端、跳ね上がる男性器。
先端のお口からは謎の液体が吹き出します。（SE）

（ミ　ウ）「エイジ様っ!?　お漏らし……っ??」

（エイジ）「（感じつつ）ミウのお触りよすぎてガマン汁がっ」

（ミ　ウ）「（不思議そうに）ガマン…汁!?　おしっこではないのですね……？」

目をぱちくりさせながら、吹き出る透明な液体を凝視します。

（エイジ）「（感じつつ）気持ちがいいと…出るっ」

（ミ　ウ）「（当惑しつつ）気持ちがいい…？　のですか……？」

エミーリアの毛並みを愛でるように男性器全体を撫であげてみます。（SE）

（エイジ）「（興奮しつつ）うぅミウっっ」

くすぐり以上に反応する男性器。
ガマン汁が激しく噴出し、わたくしの手を濡らします。（SE）

（ミ　ウ）「（困惑しつつ）エ、エイジ様……。
（驚きつつ）男性器自体、段々と……太く、大きくなっているような……」

確かめるようにゆっくり触ってみます。（SE）

（エイジ）「（感じつつ）あひっ……手コキっ！」

（ミ　ウ）「（不思議そうに）やっぱり大きくなっています……。
あ。
先端のココ。
作りが返しになっていますね…？（SE）
（感嘆しつつ驚き）わ……撫でると…すごい段差っ」（SE× n）

段差を集中的に撫でていると、
垂れ伝うガマン汁が手にまみれ、すごい音を立てはじめます。

（エイジ）「（感じつつ懇願）あんまり、激しく、する……っ、なぁ」

（ミ　ウ）「（困惑しつつ）激しくしてるつもりは…ないのですが…」

顔を上げれば、エイジ様は蕩（とろ）けてなにかをガマンしてるような顔をしています。

（ミ　ウ）「エイジ様……？」

初めて見る表情に首を傾（かし）げた瞬間、手の中の男性器がいきなり脈動します。

（エイジ）「（イク）うっ……！」

（射精１）

（ミ　ウ）「（顔射に驚く）ひゃんっ!?」（SE）

男性器の先端のお口から白濁した液体が勢いよく射出され、正面にいるわたくしの顔に命中します。

（ミ　ウ）「（混乱しつつ）エイジさまっ……顔に…なにかっかかりましたっ。
あったかくて…ぬるっとして……目が開けられません……っ」

（エイジ）「（興奮しつつ早口）顔面精液まみれのミウっエッロ！　秒で勃（た）つ……っ!!」

（ミ　ウ）「（顔を拭いながら）せいえき…。
確か…オスの生殖器官から分泌される液体ですよね……？」

（エイジ）「（興奮しつつ早口）あたり！
メスを孕ませる精子を含んだ液体。気持ちがいいと射精するっ」

（ミ　ウ）「（ぽかんとしつつ）手に着いたこれが…エイジ様の……精液…？」

（エイジ）「（鼻息荒く）ミウ専用孕ませ子種汁ともいう」

（ミ　ウ）「（意味がわからず困惑）はら…ませ……こだねじる……？？
（鼻で嗅ぐ）クン…。
（驚きつつ）うっ…匂いが特徴的です……っ」

（エイジ）「（ミウの反応に満足しつつ）さすが無垢で清廉なお嬢様アイドルっ。
（早口で）ボク色に染め甲斐ありすぎっ！」

エイジ様はしみじみ頷くと、勢いよく唇を重ねてきます。

（ミ　ウ）「（キスされながら）んっ?!♥　エイジっさ……、まぁっ♥」

愛しい彼氏とのファースト・キス。驚きと感動と幸せが脳内で爆発します。

（エイジ）「（キスしながら）ミウぅう…っ！　（荒ぶるキス）むちゅううぅゅっ」

（ミ　ウ）「（キスされながら）あっ♥　わたっくし♥　キス…ふぁじめてぇ♥　でしゅっ♥」

（エイジ）「（荒ぶりつつ）ボクもっ初めてっ！　ちゅうっちゅっちゅちゅ」

（ミ　ウ）「（ディープキスに驚く）ンっむぅ…!?」

エイジ様は、わたくしの唇を割るように舌をぐにゅりとねじ込んできます。

（エイジ）「（荒ぶりつつ）ミウっ！　ミウっ！」

エイジ様の舌にわたくしの口内がねぶられます。
歯列、歯茎、歯の裏、頬の裏、そして、舌。

（ミ　ウ）「（ねぶられながら）むぐっ♥　あんむっ♥　ちゅむっ♥　んぐっむむっちゅ…♥」
（エイジ）「（舌を絡ませながら）ミウの舌ぁ…柔らけっ…！」

（ミ　ウ＆エイジ）「（舌を絡ませながら）ちゅっ♥　ちゅっ♥　ちゅ♥　ぢゅっ♥　ぢゅっ♥　ちゅうっ♥　ぢゅ〜〜…♥」

（エイジ）「（舌を抜く）ぶはぁっ！（整息しつつ）はぁ…はぁ…はぁ…息わすれるっ」

エイジ様は唇を離し、酸素を求めて喘ぎます。

（ミ　ウ）「（整息しつつ）はぁ、はぁ、わかり…ます…♥」

同じように一息つくと、天を突き上げる男性器に目が止まります。

（ミ　ウ）「（息を呑む）…っ！」

改めて見る男性器の勇ましい姿。生殖器としての正しい姿にメスなのを自覚します。

（ミ　ウ）「（うっとり）えいじさま…♥」

最愛のオスの番（つがい）だという喜び。
無意識に脚が開き、（SE）スカートをめくり、（SE）パールピンクのショーツを見せつけます。

（エイジ）「（驚く）ミウっ!?」

（ミ　ウ）「（呆けつつ）あっ……えっ…わたくし」

エイジ様は誘われるように顔をショーツに近づけます。

（エイジ）「（興奮しつつ）めちゃ濡れてるっヤバ…」

（ミ　ウ）「（驚きつつ）ぬ……ぬれ？？　えぇっ。わたくし…お漏らし……っ？？」

（エイジ）「（興奮しつつ）ミウのメスマンコっオスチンポ欲しすぎヤバっ」

エイジ様は目を血走らせながら、濡れてる箇所を人差し指で擦ります。

（ミ　ウ）「（感じる）あひ……っ?!」

初めての刺激に思わず顔がのけぞります。

（エイジ）「（興奮しつつ）ヤバっ！」

（ミ　ウ）「（余韻に砕けながら混乱しつつ）はぁ…今っ…なにがっ……？？」

（エイジ）「（興奮しつつ）ミウの感度…三千倍すぎヤッバっ！」

（ミ　ウ）「（混乱しつつ）え……？」

エイジ様はわたくしのショーツに手をかけます。

（エイジ）「（興奮しつつ）ミウっ腰浮かして？」

（ミ　ウ）「（混乱しつつ）ぁっ…はいっ」

言われるまま腰を浮かします。（SE）

（エイジ）「（興奮しつつ）よっ」

（脱衣）

脱がされるショーツと股間を銀色の糸がつなぎます。

（エイジ）「（驚く）は……っ?!」

エイジ様はわたくしの股間を見て絶句します。

（ミ　ウ）「（不思議そうに）えいじさま…？」

（エイジ）「（興奮しつつ）マン毛ヤバっ！　ボーボーすぎヤッバ!!」

（ミ　ウ）「あぁっ……申し訳ありません…っ ///」

（エイジ）「（興奮しつつ）どエロすぎ!!　ギャップヤヴァ!!」

（ミ　ウ）「（恥ずかしがりつつ）うぅ……っ。
デリケートなところの処理は…苦手でして……。

誰にも見せないし……お、おざなりに……///」

(エイジ)「(興奮しつつ) いやいやいやっ！
ミウはこれでいいっ！　おけまる水産！」

(ミ　ウ)「(恥ずかしがりつつ) エイジ様がそうおっしゃるなら……///」

エイジ様の熱い視線は股間から離れません。

(エイジ)「(興奮早口) ビラビラちっせー！
なのにクリめっちゃでっか！
ヤバいヤバいミウマンエロすぎヤバい！
わぁっネバネバとろとろの愛液ビショった…！
ヌルヌルすぎっヤっバ!!」

(ミ　ウ)「(恥ずかしがりつつ) 説明……恥ずかしすぎますっ ///」

(エイジ)「(興奮しつつ) ミウっ！」

(ミ　ウ)「ひゃいっ…！」

(エイジ)「(興奮しつつ真面目に) 今からミウの処女をもらうっ！」

(ミ　ウ)「(うっとりしつつ) わたくしがあげられるものなら……喜んで差し上げます…っ♥」

(エイジ)「(興奮しつつ真面目に) 代わりにボクの童貞をやるっ！」

(ミ　ウ)「(うっとりしつつ) わたくしにいただけるものがあれば……ありがたく頂戴いたします…っ♥」

(エイジ)「(興奮しつつ) 性的同意をキメたところで…」

エイジ様は鼻の穴を膨らませると、脈動する男性器の根本を掴み、
わたくしの女性器の熱いところへ、狙いをつけます。

(ミ　ウ)「(困惑しつつ) えっえいじさま？？」

(エイジ)「(急に照れる) ミウとボク。今からセックスする ///」

(ミ　ウ)「(うろ覚えから徐々に理解する)
せ…っくす…。
保健体育で習った覚えがあります……。
確か…子作りするための行為。
恋人同士で行うなら…避妊が推奨される行為。
とにかく…甘くて……気持ちがいいと……御学友が話していた気がしますっ ///

（興奮しつつ）恋人のエイジ様と…せっくす。

今からするんですね♥
絶対気持ちいいっ♥
わからないけど…わかります……♥」

（エイジ）「（興奮しつつ）ボクもわかるっ！」

エイジ様は腰を突き出し、男性器の先端をわたくしの女性器に触れさせます。

（SE）

（ミ　ウ）「（驚きつつ興奮）あつっ…！」
（エイジ）「（驚きつつ興奮）あちっ…！」

性器の熱に驚き、お互いの腰が引けた瞬間、
透明の汁が同時にびゅうびゅう吹き出します。

（エイジ）「（驚きつつ興奮）うおっ?!　愛液噴き出たっ！」
（ミ　ウ）「（驚きつつ困惑）えっ!?　ガマン汁がっ！」

（エイジ）「（興奮しつつ）相性よすぎ……ヤバっ（苦笑）」

（ミ　ウ）「びっくりしました……っ ///」

（エイジ）「（興奮しつつ）初めてがミウでよかった」

（ミ　ウ）「わたくしもです…♥」

（エイジ）「（興奮しつつ）ミウのマンコに挿れた瞬間、イケる自信ある……」

（ミ　ウ）「（興奮しつつ）…気持ちがいいということですよね……？
見たいです……エイジ様の…イクところ……♥」

（エイジ）「（興奮しつつ）見とけよ見とけよ…」

（ミ　ウ）「はいっ♥」

男性器に目を向けると、自然と瞳が潤（うる）み、直視できません。

（挿入）

（ミ　ウ）「（不安と驚き）あっ……!?」
（エイジ）「（興奮しつつ）ふぉっ…」

（SE）

（ミ　ウ）「（不安と驚き）あぁ、入る、入ってきま……！」

（エイジ）「（うろたえつつ）あぁっ！
撮影忘れたっ記念すぎる破瓜セックス結婚式で流したかった…」

（ミ　ウ）「そ、そんなのいけませんっ ///」

(SE)

（エイジ）「（興奮しつつ驚く）ンンっ…急にキツっ…!?」
（ミ　ウ）「（痛み）あ゛…っ！」

（エイジ）「（興奮しつつ）処女膜ぅぅっ!!」
（ミ　ウ）「（痛み）ぐぅううぎぎぎ…っ!!　むりむりむりむりっ…!!」

エイジ様の大きく長い男性器にわたくしの処女膜は貫かれます。

（エイジ）「（興奮しつつ）ミ〜〜〜〜…ウっ!!（語尾破瓜）」（SE）
（ミ　ウ）「（破瓜）ぅうあ゛ぁっ!?」

(SE)

（エイジ）「（感動しつつ）おぉおおおおっ入る入る！」
（ミ　ウ）「（痛み）んぎっ……ぁあっっ……!!

勢いは止まらず、男性器は根元までしっかり挿入されます。（SE）

（エイジ）「（感動しつつ）入った入った入ったぁああっ!!」
（ミ　ウ）「（痛み涙）（涙）ンンン……っっ!!　エイジっ…さまぁああ!!」

（エイジ）「（感動しつつ）ヤバぁ…あったけぇ！　ミウのマンコあったけぇ…!!」

（ミ　ウ）「（痛みを上書き）熱う…っ。エイジ様の…男性器……熱いです！」

愛しい彼氏の男性器を膣内は大歓迎。優しく包むようにしてもてなします。

（エイジ）「（驚きつつ感じる）ヤバっ…きもっぢ!?」
（ミ　ウ）「（驚きつつ感じる）はぁっ…すごいですこれっ！」
（エイジ）「（驚きつつ感じる）ミウマンッきもっぢぃ…!!」
（ミ　ウ）「（驚きつつ感じる）ああっえいじさまっ!!」
（エイジ）「（急に高まる射精感）うっ、うぅっ、うっ…」
（ミ　ウ）「あっ」
（エイジ）「（イク）あっ……あぁっ!!」
（ミ　ウ）「えっ…!?」

（射精２）

（ミ　ウ）「（もらいイキ）ああぁ……っ?!」

（潮吹き）

（ミ　ウ）「（蕩けつつ整息）はぁっ♥

（エイジ）「（興奮しつつ整息）はぁっ急にっヤヴァすぎイッた…っ」
（ミ　ウ）「わたくしっ…なにがなにやら……♥」

（エイジ）「（興奮しつつ）ミウもイッて草……っ」

（ミ　ウ）「（余韻に蕩けつつ）えぇ……？　いまのがそうなのですか…っ」

（エイジ）「（興奮しつつ）ボクの精液でイクとか（笑）」

（ミ　ウ）「（蕩けつつ）奥の熱いのは……えいじさまの…精液でしたか……♥
すごかったです……♥」

下腹部を撫でながら、エイジ様をうっとりと見つめます。

（エイジ）「（興奮しつつ）ミウとのセックスは子作りセックス一択ッ」

（ミ　ウ）「（蕩けつつ）はいっ♥　セックスの正しい行為ですね…♥」

（エイジ）「（興奮しつつ）ミウっ。ボクに中出し懇願して？」

（ミ　ウ）「（困惑しつつ）え、え…っ。
（恥ずかしそうに）わかりました…。
えいじさま……。
ミウに……中出ししてください…♥」

（エイジ）「（興奮しつつ）お、おぉ…っ」

挿入したままの男性器が膨らむのを感じます。

（エイジ）「（興奮しつつ）今度は…（急に早口）チンポつっこんでマンコの奥でびゅーびゅー出して…ってよろ」

（ミ　ウ）「（キョトンとしつつ）は……はい……っ。
（恥ずかしそうに）えいじさまのチンポつっこんで、マ…マンコの奥で…びゅーびゅー出して…ください///」

（エイジ）「（悶える）ヤバっっ！　出すっっ!!」

（ミ　ウ）「（感じつつ）あ゛ぁっ♥

えいじさまの…チンポっ♥　中で…おっきくなって…ますっ♥」

エイジ様はわたくしに覆いかぶさり腰を打ち付け始めます。

(抽送（拙い）：始)

(エイジ)「(夢中に）ミウっ！　ミウっ！　ミウっ！」
(ミ　ウ)「ひっ♥　あっ♥　あぁっ♥」
(エイジ)「(驚き訛る）ミ゛ウぅっ？　締まるぅっ！」
(ミ　ウ)「ひゃん♥　あひぃ♥　あぁン♥」
(エイジ)「(驚き溶ける）ミ゛ウぅっ!?　絡むぅっ!!」
(ミ　ウ)「ひぎっ♥　ひあっ♥　あぁンン♥」
(エイジ)「(驚き蕩ける）ミ゛ウぅっ?!　引っぱられるっ?!」
(ミ　ウ)「あンっ♥　しゅっごぉ♥」
(エイジ)「(射精する）ミ゛ウっ……!!」

(射精３)

エイジ様は思いきり腰を押し付け、二度目の中出し射精をします。

(ミ　ウ)「(イク）あ゛っ…！　あっあぁ…ンっっ!!♥♥」

(エイジ)「はぁっ…はぁっ」
(ミ　ウ)「はぁ…はぁ」

(エイジ)「(放心しつつ）ヤッバぁ…気持ちよすぎんよ…」

(ミ　ウ)「(照れつつ誇らしげに）そんなに…ですか…///」

(エイジ)「(小声早口で悔しがる）精通してからずっとミウマンコで射精したい人生だった……。
ミ〜〜ウ〜〜〜っ。
ミウのマンコはボク専用の中出しマンコ…って言えっ」

(ミ　ウ)「(困惑しつつ）え…？」

(エイジ)「(興奮しつつ）ゆっくりぷりーず」

(ミ　ウ)「(恥ずかしそうにゆっくり）ミ、ミウの…マンコ…///
えいじさま…専用の……中出し……マンコです……♥♥」

(エイジ)「(鼻息荒く）知ってたっ…!!」(SE)
(ミ　ウ)「あンっ！♥」

（抽送（拙い）：再）

（エイジ）「（興奮しつつ）中出しっ！　中出しっ！　中出しっ！」
（ミ　ウ）「あぁん♥　あん♥　あん♥」

エイジ様に突かれるたび、わたくしの口からは声が止まりません。

（ミ　ウ）「あぁっ♥　はぁん♥　あん♥　あん♥
あぁん♥　あぁんっ♥　あん♥　んあ♥　あっ♥
あぁっ♥　あんっ♥　あん♥　はぁん♥」

マンコからは液体が溢れ、肉が擦られ、卑猥な音のハーモニーを奏でます。

（エイジ）「（感じつつ驚く）ひぎぃ!?
またマンコうねうねっヤバっ！　カリっこすれっヤバヤバっっ!!」

（ミ　ウ）「（胸キュン）えいじぃ♥　しゃまぁっ♥」

エイジ様の泣きそうな声がエモすぎて身も心も締め付けられます。

（エイジ）「（締まる）ヤヴァ…!!　でっ出りゅっ!!」

（射精４）

（ミ　ウ）「（キュン死）んゞああっ♥　中…っ跳ね……っ!?♥
おゞっ♥　おゞおっ♥　ぁあぁあぁぁぁっ♥♥♥」

膣の中でチンポが跳ねて擦られ、出したことのない声を張り上げてしまいます。

（エイジ）「（困惑しつつ射精）ヤぁっ……！　ヴァっまだ出るっ…!!」

エイジ様は腰を押し込み、汗が光る胸を鷲掴みにしながら射精をし続けます。

（射精５）

（ミ　ウ）「（嬉しそうに昇天）あっ、あゞづぅっ、熱（あ）ーーーーーっ……♥」

精液の熱い飛沫（しぶき）に体が突き動かされます。

（ミ　ウ）「（蕩けつつ）えいじっさまぁっ♥」

下からエイジ様に抱きつきます。
恋人を離しません。

（ミ　ウ）「（トロトロに蕩けつつ）あゞ〜〜…っ♥　えいじっしゃまぁ…♥」

膣はチンポごと激しく蠕動（ぜんどう）、子宮口はチンポの先端に吸いつこうと蠢きます。
オスを逃しません。

（エイジ）「（狼狽えまくる）うぉっ!?　おっ、おっ、お゛ぉっ!!
あ゛あっ、まてっ、まてまてっ?!」

エイジ様は悲鳴のような声をあげながらのけぞって腰を震わせます。

（エイジ）「（狼狽えつつ射精）いみわからんっ!?　吸い出されるっ?!　でる、（イク）でるっ……!!」

（射精６）

（ミ　ウ）「（蕩けつつ反射イキ）あ゛っっ!?　い゛ぐっっ♥」

熱い飛沫に反応するパブロフの膣。

（ミ　ウ）「あ゛っあ゛っあ゛ぁっ!!♥」

のけぞるエイジ様を抱きしめる腕に力が入ります。

（エイジ）「（整息しつつ）はーっ…、はーっ…、はぁ」

エイジ様は息も絶え絶えにわたくしの胸に埋（うず）もれます。

（エイジ）「（整息しつつ）からっ…ぽっ…。はぁ、はぁ。れんぞくすぎっしぬっ……」

（ミ　ウ）「（慌てて心配する）しっ…！　死んではいけませんっ!!」

二度目の死ぬ宣言にふたたび慌てふためきます。

（エイジ）「（埋もれ声）だ……だめぽ」

汗みどろのエイジ様の頭を撫でてねぎらいます。

（撫でる SE）

（ミ　ウ）「だ、大丈夫ですかっ……？」

（エイジ）「（埋もれ声：甘える）みう〜〜〜〜…っ」

（ミ　ウ）「エイジ様…可愛いです♥」

甘えてくるエイジ様の頭にキスをして慰めます。

（ミ　ウ）「エイジ様♥　（キス）ちゅ♥　ちゅ♥　ちゅぅ♥」

（エイジ）「（埋もれ声：悶える）〜〜〜〜っ。
みうーー…っ！」

エイジ様は跳ねるように顔を上げます。
すると、硬さを失ったチンポがぬるんと抜けます。(SE)

(エイジ)「ぁ……」
(ミ　ウ)「あ……」

遅れて、チンポの形にぽっかりと開いた膣口から精液が、べちょり、ぼとっ。垂れ落ちます。(SE)

(エイジ)「(驚きつつ) 量ぉ多っ…！
色ぉ濃っ…！
オナニーん時の精液と全然違っ…ヤバっ…!!」

(ミ　ウ)「(不思議そうに) そんなに……違うものなのですか……？」

股間に手を伸ばし、粘ついた液体をすくい取ります。(SE)

(ミ　ウ)「(不思議そうに) わ…っ。すごいねとねとしています……っ。
(鼻で嗅ぐ) クンクン……匂いもさきほどより……強いような……？？」

(エイジ)「(驚きつつ) あーーまだ…出てくる……っ」

(ミ　ウ)「(焦る) えぇ…全部出たら……受精の可能性が…っ」

溢れる精液を焦りながら指ですくいマンコの中に戻そうとします。

(エイジ)「えっろ……！」

(ミ　ウ)「(悲しそうに) エイジ様の…大事な…精液…っ」

(くちゅくちゅ)

(エイジ)「(諭すように) またするっ」

エイジ様はわたくしの手を掴んで止めます。

(ミ　ウ)「(おずおずと) でもエイジ様…。
今度はベッドでお願いします……。
実は…腰と背中が痛くて…。
立てそうにありません……っ」

(エイジ)「あ…」

×　　×　　×

ボクはミウと女子トイレを後にする。

（足音）

授業中の静かな校舎を並んで歩いてると次第に冷静になる。
トイレのことは現実？　夢？
ボクがやったのに実感が湧かない。

でもっ。
隣にはミウがいる。
手も繋げる。
恋人繋ぎだってできる…っ。

（エイジ）「ヤッヴァ!!」

（ミ　ウ）「（驚く）エイジ様…？」

（エイジ）「（ドキドキしつつ）授業中なのにデートみたいでヤバい」

手を繋いでない手で胸を抑える。ドキドキがヤバい。

（ミ　ウ）「確かに…！
（やや焦りつつ）エイジ様…どうしましょう。
わたくし、授業を休むのもデートも初めてでした……」

（エイジ）「（驚く）マジかっ…余計にドキドキしてきたっヤバい」

（ミ　ウ）「（もじもじしつつ）一緒に保健室に行きませんか？
生理が重いわたくしと動悸の激しいエイジ様。正当な理由があります♥」

（エイジ）「生理が重い？」

（ミ　ウ）「重すぎです…添い寝してください♥」

×　　×　　×

こうしてミウはボクの彼女になった。
ヤバい！